

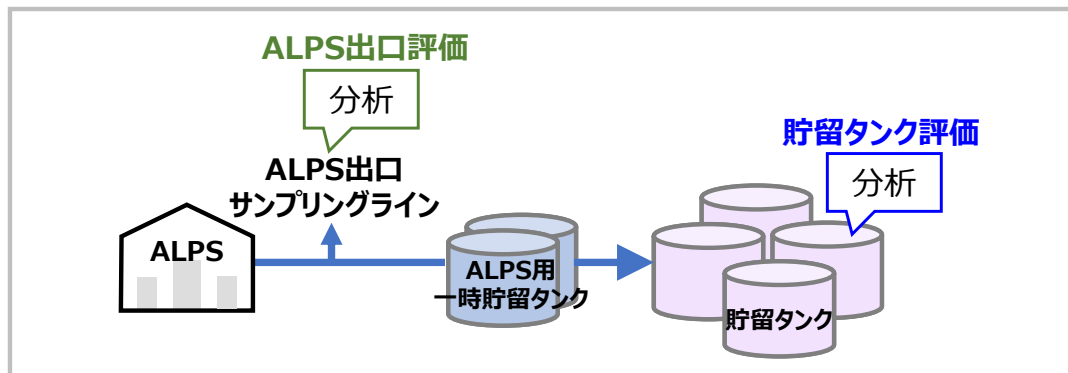
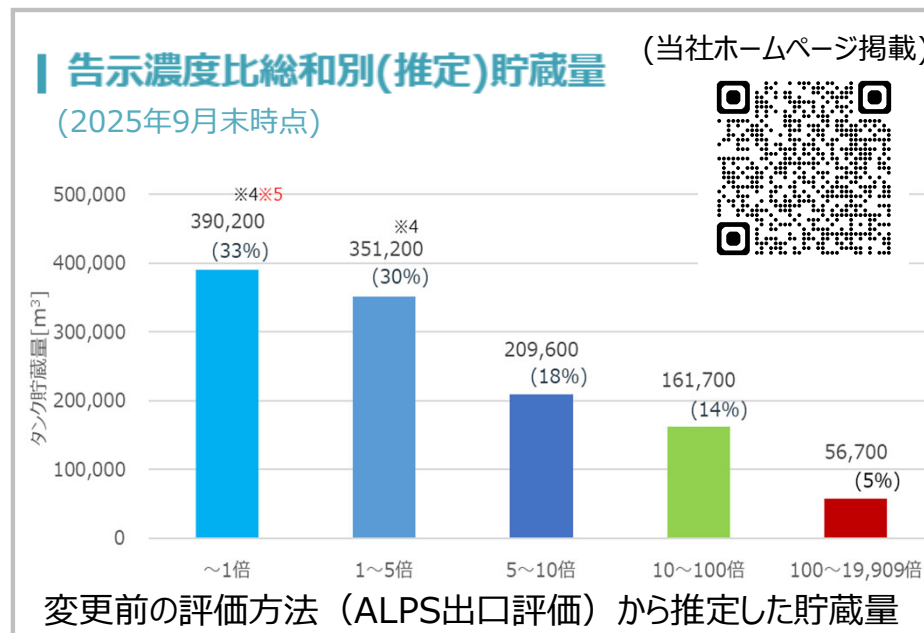
福島第一原子力発電所 処理水ポータルサイト

「ALPS処理水等の告示濃度比（推定値）毎の貯蔵量」の変更

＜ 参 考 資 料 ＞
2026年1月22日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 当社ホームページ「処理水ポータルサイト」で公開している「**ALPS処理水等の告示濃度比（推定値）毎の貯蔵量**」のグラフのデータについて、**「ALPS出口評価」（ALPSの出口で定期的に採水した分析結果）ベースから、「貯留タンク評価」（貯留タンクから採水した分析結果）ベースに変更しました。**（本日（1月22日）午後5時 変更済み）
- サイトを開設した2018年当時は、「貯留タンク評価」のデータが十分に揃っていなかったため、タンクの告示濃度比総和（推定値）を求める方法として「ALPS出口評価」を採用していました。
- 今回、「貯留タンク評価」のデータが揃ってきたことや、今後、処理途上水を再浄化する「二次処理」の開始が予定され、それに伴い告示濃度比総和（推定値）毎の貯留量も変化していくことを踏まえ、毎年度の放出計画の策定※に用いている「貯留タンク評価」を用いたデータに変更するものです。
- **「貯留タンク評価」は貯留タンクから採水し、分析することから、タンク群毎の告示濃度比総和（推定値）をより実態に近い数値として得ることができる評価方法**です。

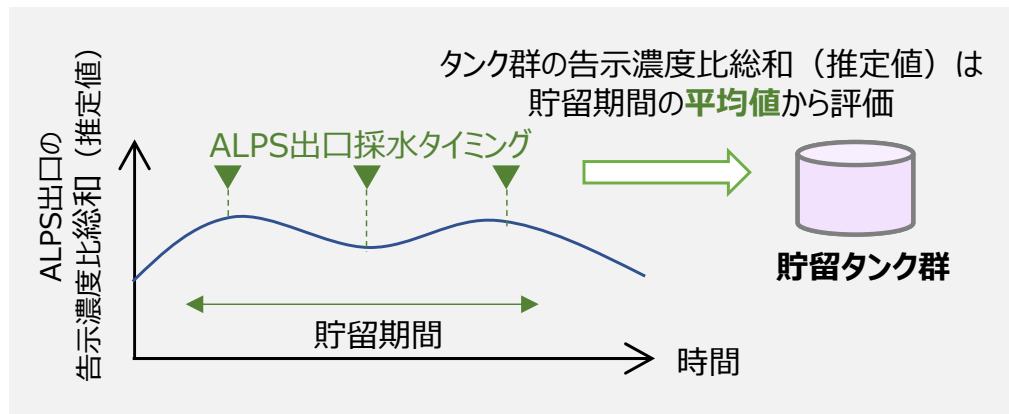
※ 海洋放出前には改めて測定・確認用タンクで分析しており、海洋放出の方法や手順に変更はありません。



- 引き続き、国内外に向けて分かりやすい形での情報発信に取り組み、ALPS処理水の海洋放出に係る安全性へのご理解を深めていただけるよう努めてまいります。

ALPS出口評価

- ① タンク群毎に、受入開始～受入終了までの期間中のALPS出口から採水し、主要7核種※¹の分析結果の平均値から告示濃度比（推定値）を評価。
- ② C-14の寄与は過去分析結果の最大値0.11と評価。
- ③ 主要7核種およびC-14を除くその他核種の寄与は0.3と評価。
- ④ ①～③の和を告示濃度比総和（推定値）とする。

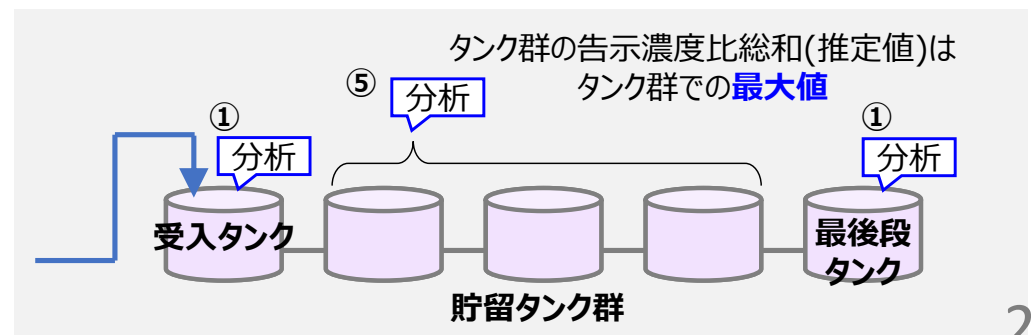


※¹ Cs-134、Cs-137、Sr-90、I-129、Co-60、Sb-125、Ru-106

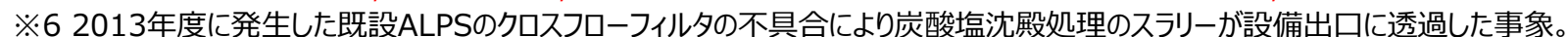
※² 一部のタンクは、主要7核種の分析値から算出した告示濃度比（推定値）に、C-14の最大値（0.11）または分析値、およびその他核種の分析値（タンク群毎に個々のタンクから採水し、それらを混合した試料を分析した値）を加えた値を採用

貯留タンク評価

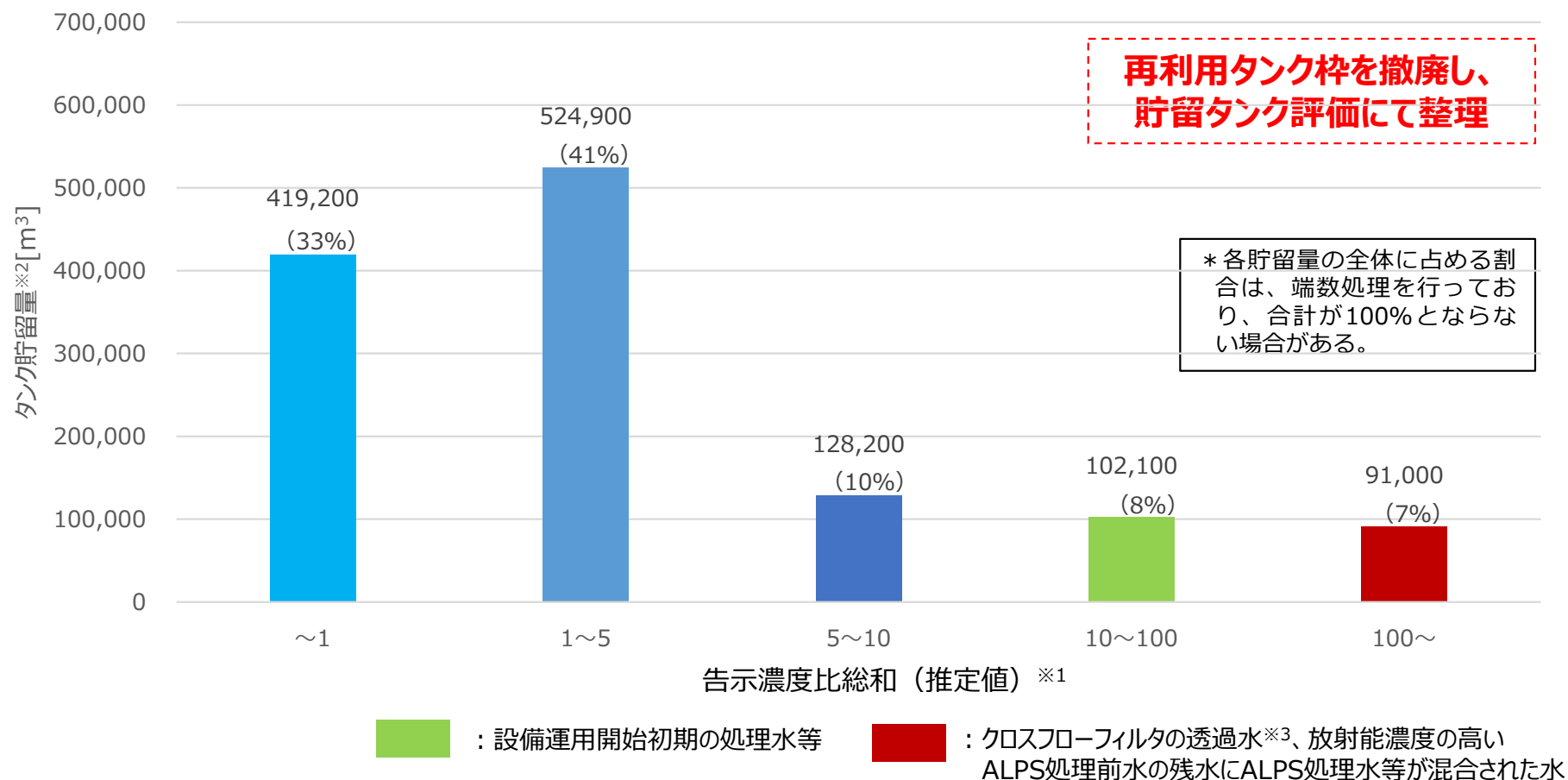
- ① タンク群毎に、“受入タンク”および“受入タンクから最も遠いタンク”から採水し、主要7核種※¹の分析結果から告示濃度比（推定値）を評価。
- ② C-14の寄与は分析済みタンクは分析結果を反映、未分析タンクは過去分析結果の最大値0.11と評価。
- ③ 主要7核種およびC-14を除くその他核種の寄与は0.3と評価。
- ④ ①～③の和を告示濃度比総和（推定値）とする。
- ⑤ ④で両方のタンクで告示濃度比総和（推定値）が1未満であった場合、タンク群を構成するタンク1基ごとに①～④を実施し、各タンクの告示濃度比総和(推定値)のうち、最大値を当該タンク群の値とする。※²



TEPCO



[変更後] ALPS処理水等の告示濃度比（推定値）毎の 貯蔵量（2025年9月末時点）



※1 主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比（推定値）にC-14の最大値（0.11）または分析値およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。一部のタンクについては主要7核種の分析値から算出した告示濃度比（推定値）に、C-14の最大値（0.11）または分析値、およびその他核種の分析値（タンク群毎に個々のタンクから採水し、それらを混合した試料を分析した値）を加えた値。

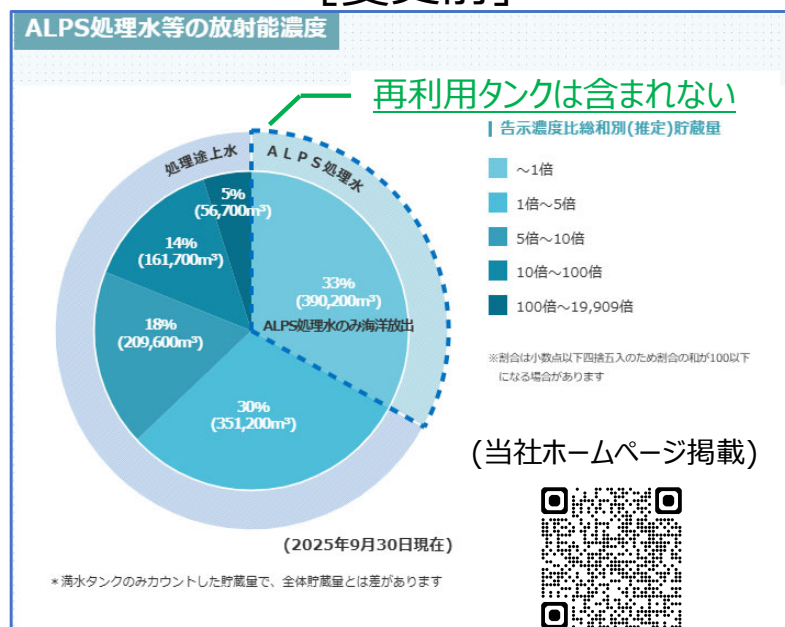
※2 タンク貯留量にはALPS処理前水等を貯留していたタンクをALPS処理水等貯留タンクとして再利用したものも含む

※3 2013年度に発生した既設ALPSのクロスフローフィルタの不具合により、炭酸塩沈殿処理のスラリーが設備出口に透過した事象

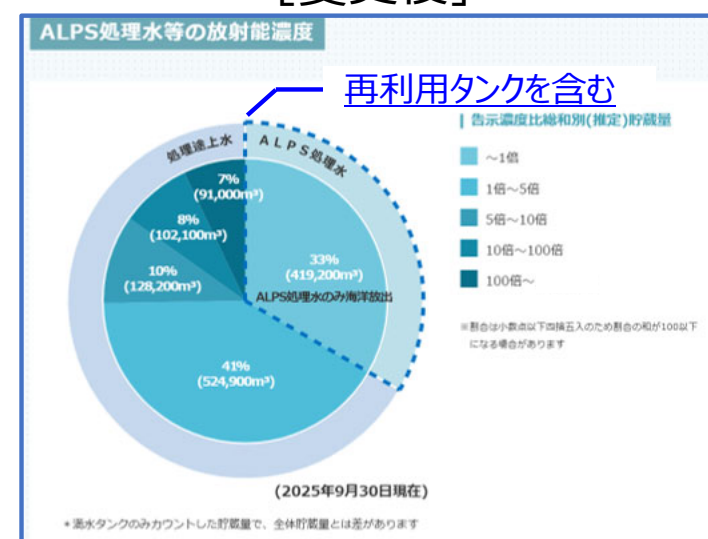
[参考] 再利用タンクの扱い

- 再利用タンクは、ALPS処理前水等を貯留していたがALPS処理水等を貯留するために再利用したタンクです。
- 貯留していた水の残水等の影響により、再利用後の放射能濃度が不確定であったことから、別枠として集計していました。
- 再利用タンクについても、貯留タンク評価による分析結果が出ていることから、今回の評価方法変更に合わせて記載を見直し、告示濃度比毎の貯蔵量の集計に含めます（処理水ポータルサイト「ALPS処理水等の放射能濃度」の円グラフも同様）。

[変更前]

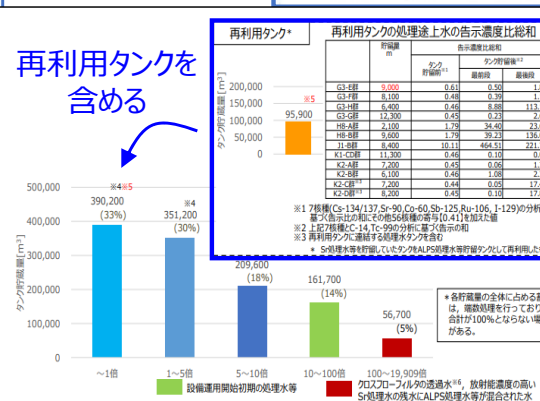


[変更後]



現在、①ALPS処理水等は、トリチウムを除く大部分の放射性核種を取り除いた状態でタンクに貯蔵しています。多核種除去設備は、①汚染水に関する国の「規制基準」のうち、①環境へ放出する場合の基準である「告示濃度限度」より低いレベルまで、放射性核種を取り除くことができる（トリチウムを除く）能力を持っています。ただし、設備運用当初の不具合や処理時期の運用方針の違いなどにより、現在の②告示濃度比と総別の貯蔵量は図の通りになっています。

- ② 貯蔵タンクエリア毎の放射能濃度を詳しくみる
- ③ 多核種除去設備等の出口におけるALPS処理水等の数値を詳しくみる
- ④ ALPS処理水等の告示濃度比（推定値）毎の貯蔵量（2025年9月末時点）を詳しくみる



リンク先で再利用タンクの
詳細が表示されていた。

変更後は別枠としていた
再利用タンクを集計に含
める。